

旧日銀岡山支店本館耐震・改修工事について



所属名：岡山県土木部都市局建築営繕課

発表者：中野 弘一朗

1. 経緯

旧日本銀行岡山支店本館は、大正11年（1922年）に建築され、すでに84年が経過している。設計は、当時銀行建築の第一人者であった建築家・長野宇平治によるもので、優れた洋風建築の造りとなっている。



当館はこれまで大規模な改修工事はされておらず、特に耐震性能については、耐震診断により「大規模な補強を要する」と診断された。

この大正期の歴史的建造物を後世に残していくため、耐震補強を施し、多目的ホールとして再生し、そして文化・芸術の創造拠点「ルネスホール」（おかやま旧日銀ホール）として生まれ変わった。

■年表

- | | |
|-------|--|
| 大正11年 | 建築。 |
| 昭和62年 | 日本銀行岡山支店が別敷地へ移転。 |
| 平成元年 | 岡山県が土地・建物を取得。
再生計画の検討、未利用の状態が続く。 |
| 平成13年 | 「旧日銀岡山支店を活かす会」からの提言を受け、
多目的ホールとして活用することとなる。 |
| 平成14年 | 基本計画策定。 |
| 平成15年 | 実施設計 |
| 平成16年 | 着工（工事期間：h16.6.1～17.6.30／植栽工事はh17.5.30～7.29） |
| 平成17年 | 完成（9月2日オープン） |
| 平成17年 | 12月26日、本館棟が国の「有形登録文化財」に登録。 |

2. 工事について

今回の工事は、解体、改修、新築に分類される。本館棟及び金庫棟を残し、その他木造等の附属建物を解体し、本館棟の耐震補強及び全面リフレッシュ及びエントランス等の新築を行った。なお、金庫棟については工事範囲外とした。

特に改修工事に当たっては、漆喰の壁・天井仕上を養生しながらの建物内部での杭工事、狭い小屋裏での鉄骨補強工事など、細心の注意と高度な技術を要した。



■改修工事面積表

ゾーン	本館棟	エントランス棟	ラウンジ棟	金庫棟	面積合計
構造	RC+レンガ造 小屋組Sトラス	S造	RC+S造	RC造	—
規模	地上2階	地上1階	地上1階	地上2階 地下1階	—
建築面積 (㎡)	548.85	156.54	233.31	未改修 460.95	改修 938.70 (未改修含 1,399.65)
延床面積 (㎡)	771.02	100.38	233.31	改修 95.81 (未改修含 1,353.43)	改修 1,200.52 (未改修含 2,458.14)

■工事費

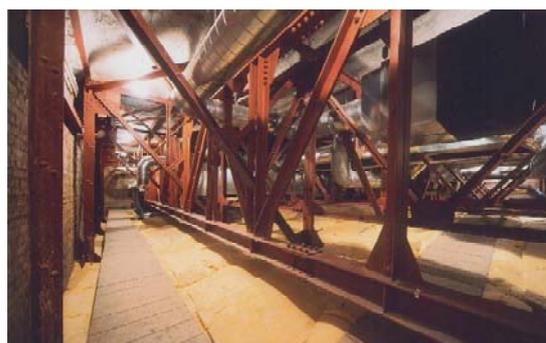
建築工事（外構一式含む）	268百万円
電気設備工事	56百万円
機械設備工事	51百万円
植栽工事	6百万円
合計	約381百万円

2.1 耐震補強

レンガ造などの耐震補強は、壁を増し打ちコンクリートで固める工法等が一般的であるが、今回の改修工事のテーマは、「歴史ある建築物の保存」であり、壁をコンクリートで覆うことは意匠を変えてしまうことになるため採用できない。このため、建築物の内部空間に新たな骨格（メガフレーム）を造り、既存建築物を支えるという工法を採用した。

具体的には、建物内部にて場所打ち杭を施工、鉄骨トラス柱（耐震柱）を建て込み、小屋裏の既存鉄骨トラスを補強しながら耐震柱と一体化し、小屋裏階の荷重を新設耐震柱に伝達する。

また、レンガ壁のうち構造的に重要な部分（建物の四隅）について、レンガの隙間を埋め（グラウティングし）、鉄板で補強する。



こうして既存の構造体と新たな構造体に建築物の荷重を分散することで、耐震性能を確保しながら建築意匠を保存することが可能となった。

なお、新たなメガフレームには、照明、音響機器、空調機器等をバランス良く納め、意匠性も確保しながら構造と建物機能の柱となっている。



2. 2 意匠の保存

内外装とも、建築当時の意匠をそのままの形で保存している。

外壁の石仕上げ面は水洗いのみ。その他欠損部等の補修に当たっては、エイジング技術による復元補修を行い、石の表情を再現している。



2. 3 温故知新

新築部分については、本館棟の基本モジュールを尊重した計画とし、本館棟の邪魔をしない、それでいて凛としたデザインとした。また、外壁では施工が困難な本実（ほんざね）型枠を使用した出目地のコンクリート打放し仕上がりが美しく仕上がっている。



2. 4 開かれた空間

外構では、銀行時代の囲まれた塀を取り除き、解体した石材を再利用したベンチ、飛び石や植栽を施し、街へ開かれた都市公園的なオープンスペースを整備し、市民の憩いの場として利用されている。



3 使う

3. 1 管理・運営

当施設は岡山県初の指定管理者制度を導入し、現在「NPO法人バンクオブアーツ岡山」が施設の管理・運営を行っており、全国的にも他に類を見ないオンリーワンの施設活用を実践し

ている。(URL <http://www.renaiss.or.jp/>)



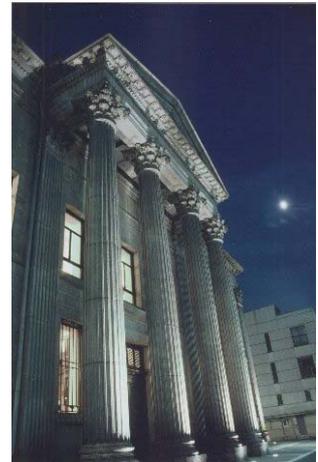
■ルネスホールの特徴

- 大正時代の雰囲気のある空間。
- 最大収容約300人のこじんまりとしたホールで、演奏者等と客席との距離・視線高さが近く、空間全体の一体感が得られる。
- 既存窓の防音タイプへの取り替え、各所の吸音処理等により、レベルの高い音楽ホールとしての機能を確保しながら、窓があり外部の雰囲気を感じることのできるユニークなホールづくりが実現した。



3. 2 交流の場

重厚な金庫扉が印象的な旧公文庫を改修し、カフェとして利用している。ここでは、情報交換・情報発信の場として交流の空間が形成され、街のランドマークとして存在感のある外観と相まって、館としても文化・芸術・まちづくりの情報発信基地として注目されている。



4 おわりに

建築物は使われてこそその機能を発揮する。

我々は建築物を造ることを業務としているが、それを使い検証し、次の建築へ繋げていく『「つくる」から「使う」、そして「創る」へ』をテーマとして取り組んでいる。

